

かお・人インタビュー

2014年 3月20日(木)

福岡市土木建設協力会

城	本
憲	治
会	長

インタビュー



◎貴団体の紹介について

協会の設立については、福岡の都市部が太平洋戦争末期の昭和20年6月、福岡大空襲によって焦土と化した。その後、戦災復興事業が鋭意進められ、昭和24年5月に建設業法が公布され、建設業の役割が大きく求められる時代となり、「市街地の復興整備に万全の体制で臨む」として、昭和25年5月、地場建設業者が結束して創立されました。

現在の会員数は116社。福岡市の指名業者として登録されている地場土木建設業者で構成し、土木

事業に関する技術等の発展・向上といった観点から、「土木設計の方法」や「入札契約手法」等について様々な見地から福岡市に要望・協議を行っています。

また、先達（せんだつ）の方々、福岡市の発展とともに築いてきた“地場建設業の健全な発展と社会的な地位の向上”に感謝し、当時の高邁な精神をこれからもきちんと引き継いでいこうという意味のもと、積極的に社会貢献活動に関わることにしています。

◎具体的な社会貢献活動は

まず、その1が「地域防災活動」ですが、梅雨期や突発豪雨、さらには台風襲来時などには河川の氾濫や土砂災害が市民の安全を脅かすため、「いざ」という時には福岡市内全域に所在する協力会会員116社が、行政と連携を取って福岡市民の皆さんの安全確保を図ることにしています。協力会では毎年「災害対策実施要領」を作成するとともに、防災

訓練の実施など災害の発生に備えています。

その2が「総合防災訓練、水防訓練への参加と協力」、福岡市は毎年5月、災害対策基本法等に基づき市民の防災意識の高揚や災害対応能力の向上等を目的に防災訓練を実施していますが、当会では、地域防災活動を担う立場から防災訓練に参加し、市民や区役所職員に対する土のう作製・土のう積みの

指導・訓練を行っている。また、同様に毎年 5～6 月に実施される福岡市道路下水道局水防訓練にも参加し、道路下水道局職員に対する指導・訓練も行っている。訓練で作製された土のう約 1,500 袋は、



水防訓練

梅雨時期等に多数必要とされる河川の氾濫等に備える浸水対策土のうとして備蓄されている。

その3の「違反広告物除却作業」については、福岡市が人口約 150 万人の大都市に発展し、陸・海・空（高速道路・新幹線、港湾、空港など）の交通網整備もあって、国の内外から毎年 1,600 万人を超える大勢のお客様が訪問されるが、当会では、都市景観を維持し福岡を訪れるお客様を温かくお迎えしようと、福岡市と連携して市内主要幹線道路に設置されている違反広告物の除却ボランティア活動を定期的に行っている。実施時期として近年は、福岡国際マラソン大会が開催される 12 月第 1 日曜日の前日にトラック約 30 台、作業員約 90 名が出動し作業延長約 500km を半日程度でこなしている。

その4が「飲酒運転撲滅運動」、福岡市及び福岡県では、平成 18 年 8 月に福岡市東区海の中道大橋

で発生した飲酒運転死亡事故を契機に飲酒運転撲滅のための様々な取り組みを進めているが、飲酒運転による事故が後を絶たない。このため、当会においてもこの深刻な状況を行政とともに打破すべく、地域の安全・安心を守る地場土木建設業団体の新たな決意として、全会員・全社員の参加による「飲酒運転撲滅運動」に取り組んでいる。

その5が「チャリティーゴルフ大会」、社会福祉に役立てていただくためのチャリティー事業として、会員参加によるチャリティーゴルフ大会を2年に1度実施して、福岡市社会福祉協議会などに寄付をしている。平成 24 年 12 月の寄付は、当会が“飲酒運転撲滅運動”への取り組みを開始したこともあって、NPO 法人はあとスペース（代表：山本美也子氏）に寄付をさせていただいた。

その6が「献血活動」、全ての会員が建設業を営み、仕事から怪我をすることもあり、大きな怪我の場合は「輸血」を受けることも考えられる。このた



献血運動

め、会員を挙げて「献血運動」に取り組んでおり、輸血用血液が不足する年末の11月初旬から12月末にかけて実施している。

◎景気回復の中で公共投資も増えていますが、貴団体の現状は

福岡市が発注する公共工事については、平成 25 年度「一般土木」の工事発注が政府の経済対策等に呼応して増加しており、件数ベースで、24 年度比約 107%。ただし、「地下鉄七隈線延伸工事関係」を除くと約 106%。金額ベースで、24 年度比約 205%。ただし、「地下鉄七隈線延伸工事関係」を除くと約 136%。・発注金額をランク別にみると、A ランクが突出し 24 年度比約 460%、B・C ランクは約 11



0%台、Dランクは前年度割れとなっている。Aランクの突出分の9割方を大手ゼネコンが受注している状況です。

当会会員の受注状況は、A・Bランクがほぼ前年度並み。C・Dランクでは前年度割れの状態で、資材等の値上がりや人材不足と重なり、会員の逼迫した状況が見て取れます。

福岡市における大きな課題としては、①地下埋設物の調査など事前調査が不十分なまま「見切り発注」をすることが多い、②このため、受注しても円滑に着工に漕ぎ着けるどころか、早期の工事着手に向けて受注者の負担で、埋設物調査や地元調整などを余儀なくされる。③「設計単価」と「実勢単価」の乖離があまり

にも大きい、④他の大都市が対応しているような柔軟性(現場に合致する工法・歩掛りの採用等)に欠ける。⑤結果的に利益が出る工事が少ない—などの問題点があるようですので、行政に改善を働き続けていきたい。

1. 事前調査が不十分、見切り発注が多い
2. 受注者の負担で、埋設物調査や地元調整
3. 設計単価と実勢単価が乖離
4. 対応の柔軟性に欠ける
5. 結果的に利益が出る工事が少ない
など、問題点の改善を行政に働きかけ続ける

◎平成26年度への期待は

当初予算ベースで一応、前年度並みの額が確保されているが、土木担当職員もこれまでの公共工事の削減と一緒に、減員されてきているので、円滑な発注もあまり期待できないのではと考えている。また、それなりの発注がなされたとしても、前にも述べたような理由もあり、利益に結びつく工事の受注が難しいのではないかと危惧しているため、適切な対応を福岡市に要望していきたい。

◎団体活動の中で、最も力を入れている活動は

福岡市への要望活動は、地場業者の活用や育成などの面において、柔軟な「入札契約制度」への取り組みをお願いするとともに、経済環境の変化等に伴い国土交通省など国がすでに行った制度改正等に対する早期追随などを要望していきたい。それから、当協会としての社会貢献活動の充実・拡大にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

◎団体長としての抱負を

第一に会の魅力づくりとして、各種セミナー等を通じて会員のスキルアップ事業に積極的に取り組んでいくことと、福岡の地に育てられた老舗の土木建設団体として、これからもきっちりと社会貢献を進めていきたいと思っています。さらに、社会基盤施設の整備及び更新が、円滑、かつ確実に実行されるよう、福岡市に対して積極的に提言等も行っていきたい。



◎趣味・特技・生きがいなど

趣味としては「英会話」とか「ゴルフ」ですかね。ドライブも好きで、たまの休みに出かけたりしています。会員相互間で『屈託のない笑顔』が見られる瞬間に生きがいを感じますが、本当、会長冥利に尽きますよ。

◎プロフィール

昭和20年8月8日生まれ、68歳

昭和45年3月 福岡市を退職

昭和45年 株式会社城建設を創業

以来、現在に至るが、波乱万丈の人生を送ってきた。

45歳頃からは少し落ち着いてきた。

平成23年1月 会長就任

平成26年2期 4年目を迎える